

京 城 日 報

刊 夕 巨 九 廿

支 那 の 形 勢

▲ 張 督 軍 排 斥 運 動

張督軍は、最近支那の形勢を考慮し、排斥運動を積極的に行っている。これは、支那の統一と安定のために必要である。張督軍のこの姿勢は、国内外から注目を集めている。

▲ 意 味 ある 午 餐 會

黎總統は、昨日午後、公使招待の午餐會を開いた。これは、外交関係の強化と友好の促進を目的としたものである。黎總統の演説は、大いに注目を集めた。

▲ 總 理 案 參 議 院 通 過

北京參議院は、五月二十八日午後二時、李總理の案を通過した。これは、政府の政策を支持する重要な決断である。通過後の形勢は、ますます安定している。

▲ 索 倫 族 其 他 獨 立 派

索倫族は、最近独立派の動きを見せている。これは、民族の権利と自由を主張するものである。政府は、この動きを慎重に監視している。

▲ 獨 飛 行 隊 襲 撃 詳 報

獨飛行隊は、最近襲撃を行った。これは、軍事行動の一部である。襲撃の結果は、大いに注目を集めている。

▲ 露 國 平 和 黨 員 追 放

露國の平和黨員は、最近追放された。これは、外交関係の悪化を招いた。追放後の形勢は、ますます緊張している。

● 米 兵 愈 々 戰 線 向 向

米兵は、最近戦線に向かって進んでいる。これは、軍事行動の一部である。進軍の結果は、大いに注目を集めている。

● 伊 太 利 軍 の 奮 戰 振

伊太利軍は、最近奮戦している。これは、軍事行動の一部である。奮戦の結果は、大いに注目を集めている。

● 浦 港 義 勇 團 組

浦港義勇團は、最近組織された。これは、軍事行動の一部である。組織の結果は、大いに注目を集めている。

● 中 立 妥 協 失 敗

中立妥協は、最近失敗した。これは、外交関係の悪化を招いた。失敗後の形勢は、ますます緊張している。

● 遺 米 露 大 使 通

遺米露大使は、最近通じた。これは、外交関係の悪化を招いた。通じた後の形勢は、ますます緊張している。

● 野 口 博 士 危 篤

野口博士は、最近危篤である。これは、医学界の注目を集めている。博士の病状は、大いに注目を集めている。

● 日 郵 專 務 更 迭

日郵專務は、最近更迭された。これは、外交関係の悪化を招いた。更迭後の形勢は、ますます緊張している。

● 中 京 視 察 團 通

中京視察團は、最近通じた。これは、外交関係の悪化を招いた。通じた後の形勢は、ますます緊張している。

● 漢 江 の 鐵 橋

漢江の鐵橋は、最近完成した。これは、交通の便を促進した。完成後の形勢は、ますます安定している。

● 柳 田 翰 長 入 京

柳田翰長は、最近入京した。これは、外交関係の悪化を招いた。入京後の形勢は、ますます緊張している。

● 田 中 課 長 任 命

田中課長は、最近任命された。これは、外交関係の悪化を招いた。任命後の形勢は、ますます緊張している。

● 右 近 氏 の 來 鮮 用 向

右近氏は、最近來鮮用向した。これは、外交関係の悪化を招いた。來鮮後の形勢は、ますます緊張している。

● 吉 林 銀 開 閉

吉林銀は、最近開閉された。これは、外交関係の悪化を招いた。開閉後の形勢は、ますます緊張している。

● 清 州 二 事 務 所 成 立

清州二事務所は、最近成立した。これは、外交関係の悪化を招いた。成立後の形勢は、ますます緊張している。

● 大 田 二 事 務 所 成 立

大田二事務所は、最近成立した。これは、外交関係の悪化を招いた。成立後の形勢は、ますます緊張している。

● 木 浦 二 事 務 所 成 立

木浦二事務所は、最近成立した。これは、外交関係の悪化を招いた。成立後の形勢は、ますます緊張している。

● 人 事 消 息

人事消息は、最近発表された。これは、外交関係の悪化を招いた。発表後の形勢は、ますます緊張している。

● 竹 島 の 島 人 の 近 況

竹島の島人の近況は、最近発表された。これは、外交関係の悪化を招いた。近況後の形勢は、ますます緊張している。

● 人 事 消 息

人事消息は、最近発表された。これは、外交関係の悪化を招いた。発表後の形勢は、ますます緊張している。

● 人 事 消 息

人事消息は、最近発表された。これは、外交関係の悪化を招いた。発表後の形勢は、ますます緊張している。

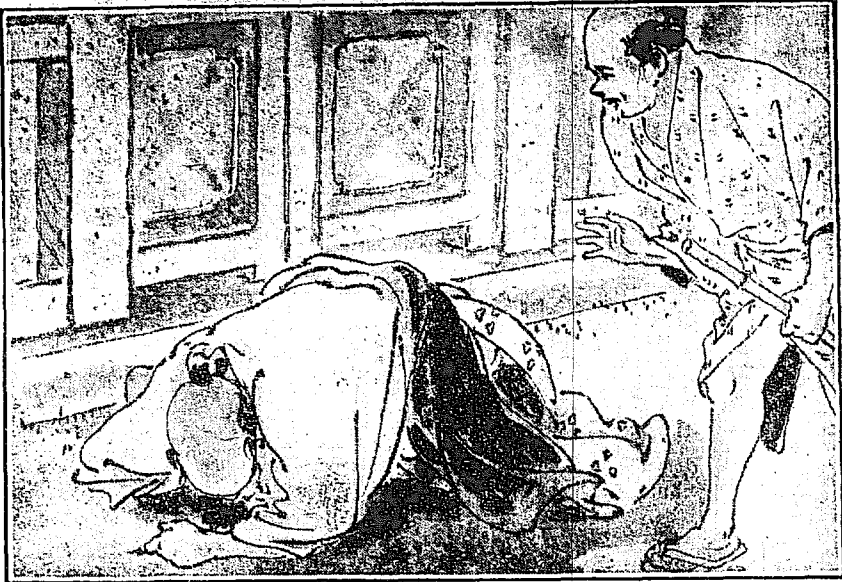
● 人 事 消 息

人事消息は、最近発表された。これは、外交関係の悪化を招いた。発表後の形勢は、ますます緊張している。

第一百六十席

田邊南龍口演

安藤有_レ京_ノ造_ニ長良_ノ長公_ノの仰_ニ承_レけり。重_ニ御條_ニ提_レり候へども猶_ニ御三_ノ臣_ノ一同_ニとも御條_ニいたし、紀尾木御三_ノ位_ノへも御内_ニを仕_テて實_ニめて幸_ニ地_ニ三位_ノ執立_ニに相_レ成_レり國千代君御相續_ニの之_ノ樣取計_ノの心底_ニにございます。忠_ニイ_ノヤ國千代_ノを執立_ニに於_テは永_ニ長良_ノの怨_ニみは徳川家_ニに止_ルること故_ニ決_シてならんぞ。國千代_ノも又_ニ如何_ノなる沙汰_ニありとぞ。忠_ニイ_ノヤ貴族_ノの例_ニに加_レり今日_ニを心安_ニく過_シすことは無_ニ用_ニなるべし。假令_ニ御門_ノ黒衣_ノの姿_ニにならずとも心は御通_ニりませんから國千代候_ノの御手_ノを取つて右_ニ京_ノ造_ニ重良_ノ其_ノ席_ニを引_レ退_リりますし國千代君_ノは父上_ノの御生_ニ密_ニを避_レばかと思_ハへ心も沈_ニみ憂_ニい足_ニも進_ニまかねまする最_ニもなる次第_ニにございます。忠_ニイ_ノヤ所_ニ存_ニする内_ニに充_ニ分_ニく支_ニ度_ニにございます。遂_ニに西_ノ遊_ノの容_ニ子を御意_ニになるを遂_ニげられし御檢校_ノ酒井若_ニ恭_ノ守_ノより。若_ニ長良_ノの云_ニへ申し上_レります。他_ニにお心_ニ成_レは忠_ニイ_ノヤ最早_ニすこども是_ニま是_ニまとぞ仰_セせられて與_ニを搦_テて短刀_ノを取_レて紅_ニし美_ノ御切_ニあせられ。太刀_ノ取_レて



に入つて鹽山縣城を巡り父の菩提を弔い、くれよ、他に申し置くことは更に無し、永居をいたさば出陣の役人の手前忠長生害に未練あると申されては相成らず早々に退れ、國へ入りましたね、と、お父上の仰せ確りと承知仕りました、即ちは鹽山千代よりお茶を一服奉りたく心得ますのがお聞濟下されますや、忠「ウム、俤の立前も別段であらう申し付る」その仰せ、乃で國子代儀其の傍に於てお茶を立て御生害の前に父上へ差し上げました、忠長公は快くお茶一服召された、忠「あゝ是にて喉も開きさば召された、重長其方の忠意は確と心懸け置こそ、俤と俤との引取の様に」とお目醒めに相成りましたから、御生害をお見せ申す譯にはな

御介錯をいたし御檢閲を相済み御
散は高蘭の人心をへ襲りました、
に寛永十年十二月の八日のことで、
長公は御年二十八、正名は隆盛院
帝私清微院榮大居士と申します、
今以て高蘭大心寺に忠長公の御石
は造つて置ります、其の傍に、
の松といふのがございますが、茂
柳院にて江戸表の方へ向いた方は
分格れてしまふ、是は片格れの松
云つて實に不思議な話してござ
ます、スバと恰度忠長公の初七日
俤者とも知れず一人の武士が來て
碑の前で切腹いたして死で居る者
あつた、憂心で死して此の事を和
に告げる、大心寺の和尚も何者で
るかと早速に城内へ訴へました故

から、御生害をお見せ申す譯にはな

右は忠長公の家臣大島大覺といふ
 にてございます、此の者は前々申し
 上げました忠長公へ南無指南をい
 して居つた事で、主人の志を憐れ
 て家光公御上洛の時に、宇都宮條に
 待構へ居つて乗物へ鐵砲を射込みに
 其處にして此處を逃去りせよといひ
 方を逃り居りましたが、東海道沼津
 の宿にて小濱七之助の妻おゆりを助
 け三番町水野内記の許に居る小濱七
 之助へ引渡され、猶それよりして家
 光公を犯へたきんと附随して居まし
 公が、如き討つと云はれ、内に
 宇都宮釣天井が露顯いたし忠長公は
 高嶺に於て御生害をなさる様なこ
 になりましたから最早是でと覺悟
 を悟めて密に此の太心寺へ參つて草
 臥に於て切腹いたしたものと見聞き
 する、此の事は大覺が懐中いたし居
 つたる書面に於て交類相聞した
 り、此の事右京進へ申し上げ
 る右京進も悪人とは申せ忠長公に對
 しては無類の忠臣、死敵は同じくす
 心寺へ參つて遣はしましたが、是
 忠義の徳でございませう

五月卅一日九星
 酉四月十一日登四
 本命九紫南定友引

[illegible]

新荷著

スウェーデン
ツェン
懷中時計
ルゲニア
銀製



正確な時間を知るには
正確な時計が必要です。然るに
正確な時計は、正確な時間を知るには
正確な時計が必要です。然るに

[illegible]

酒清等優本日大

品質純良

衛生無害

白鶴

本庄

發賣元

京坂本町二丁目甘番地

前田酒店

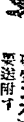
電話一三七番

飯橋口座四二五番

藤津謙御影町

嘉納合名會社

廣造元



今東京で大評判の元氣散を思ふ顔赤き顔日ヤケおしろいヤケアレを防ぎキメをゴマカに眞に色白く美人美男子となる顔の薬店小間物化粧品店にあり近所に品切の時は切手代用御送附あれば送品す 送料内地八錢 清洲川口 郵便掛八錢 東京神田區泉橋際 松本藥店

七日月ツグタツ鏡をどうも色白くなるダンシ液

小瓶 二十錢
大瓶 四十錢

タツタ一瓶でも見ちかくなるダンシ液

是れからの焦々防止白粉のノイゼン無し商売の後の後髪の手後お掛けになれば髪割とけ防止肌をきれいにし自然の美をなす事ダンス液の特長は髪を一変飾らずに髪がよす 購買所は各地小間物化粧品店薬店にあり品切の際は切手七枚送附 御注文は遠くは送料を要送附す

定価小瓶金二十錢 大瓶金五十錢

要送附す

東京市日本橋區馬喰三の六

秋村 彌三郎 商店

買取れ店

東京市日本橋區馬喰三の六

秋村 彌三郎 商店

品上買御省内宮

一番良^{ばんよ}い香水^{こうすい}

と言^いふ語^{ことば}は「オリヂナル」

原料^{げんりょう}香木^{かうぼく}

の獨占^{どくせん}なを

内外^{ないがい}を通じて是れ以上の香水^{かうすい}は斷^{ことわ}じてない

偽物^{いつぶつ}あり發賣^{はつばい}元に御注意^{ごちゅうい}

カオ^{カオ}ル^ル本舖^{ほんぷ}東京^{とうきょう}安藤井筒堂^{あんどうせいとうどう}

貴婦人令嬢式お化粧法は

太

仲

比喩下天事なる底低格 名「第七」の「身」振「開」振「開」

(るなく白いてき地生)

先第三

一番高尚で美しい艶の出る

石鹼よりも牛乳よりも滑かに有効なクラブ洗粉で丁寧に肌を洗ひ、皮膚の毛穴をクラブ洗粉でゼリーを糊から解かして洗る。洗後の方がならば一番よくくアレ止めの無臭の美身用クラブ洗粉クリームを代りに用ひ、指先で軽く擦込んでから拭取る。大抵から

クラブ洗粉

を掌に取つて付け(横は顔より少し濃く)、牡丹刷毛で白粉を延ばし、水刷毛で白粉を均らし、湿タオルでソフト抑へて白粉を落付かせ、次に

淑女式のお化粧の順序

クラン
洗粉

クラン
クリーム

クラン
自粉

牡丹
はけ

水はけ

クラン
タムル

クラン
頬紅

クラン
粉白粉

美人

お顔にキンナリ桜色の健康色を與ふるクラン。頬紅を目の下から頬へかけ薄く刷き、最後に、お化粧を引立てるクラン。粉白粉を含ませた眉彫毛の柄の力を軽く叩いて、夫れで顔から縁へかけ能く刷き均されます。一高尙で美しい淑女式のお化粧が出来上るのでございます。

貴婦人令嬢方は凡て此の淑女式お化粧法を貴用せられます



第二の維新來る

(二) 世界戦争の歸結と日本

一口に維新といふと、明治維新の事である。明治維新は、日本の歴史に於ける最大の転機である。その時、日本は、鎖国政策から開放され、西洋文明を積極的に吸収し、国家として立身した。その結果、日清戦争、日露戦争を経て、世界大戦に参戦し、戦勝国として地位を確立した。しかし、戦後、日本は再び大きな転機を迎えている。それは、第二次世界大戦の終結である。戦後、日本は、戦前とは全く異なる状況に置かれている。戦前、日本は、軍国主義の道を進み、アジアを侵略し、世界を征服しようとした。しかし、戦後、日本は、民主主義の道に進み、平和を愛する国家として立ち上がる。この戦後の日本は、第一の維新である。それは、政治、経済、社会、文化のあらゆる面で、戦前とは異なる新しい道を歩むことである。そして、この戦後の日本は、第二の維新を迎えている。それは、戦後の日本が、戦前とは異なる新しい国家として、世界に立身することである。この第二の維新は、戦後の日本が、戦前とは異なる新しい道を歩むことである。それは、政治、経済、社会、文化のあらゆる面で、戦前とは異なる新しい道を歩むことである。そして、この第二の維新は、戦後の日本が、戦前とは異なる新しい国家として、世界に立身することである。

支那の政局

支那の政局は、戦後の日本にとって重要な問題である。支那は、戦前、日本にとって最大の市場であり、資源の供給地であった。戦後、支那は、民主主義の道に進み、平和を愛する国家として立ち上がる。この戦後の支那は、第一の維新である。それは、政治、経済、社会、文化のあらゆる面で、戦前とは異なる新しい道を歩むことである。そして、この戦後の支那は、第二の維新を迎えている。それは、戦後の支那が、戦前とは異なる新しい国家として、世界に立身することである。この第二の維新は、戦後の支那が、戦前とは異なる新しい道を歩むことである。それは、政治、経済、社会、文化のあらゆる面で、戦前とは異なる新しい道を歩むことである。そして、この第二の維新は、戦後の支那が、戦前とは異なる新しい国家として、世界に立身することである。

手紙上手は一生の徳

特選名筆の習得は、人生の最大の幸福である。手紙の書き方、読み方、送り方を、一生の徳として身につけてほしい。

監大町桂月先生
顧問 巖谷小波先生

入会費 三ヶ月分
月会費 三ヶ月分
入会金 三ヶ月分
入会金 三ヶ月分

第六回會員募集
卒業月 卒業月
卒業月 卒業月
卒業月 卒業月

東京市平込區高田馬場
振替口座東京二八六六番
手紙研究会

ごもりの(吃音)が治る

△進歩した學理は新時代の賜
△多數の全治者は卓効の實證

東京府下淀橋字柏木三六二 東京吃音學院

家庭醫學

近著 刷補 家庭醫學 (全一冊)

左伯 刷補 家庭醫學 (全一冊)

青島大學教授 井原義先生著 (新刊全二冊)

資料 最近世界地理

東京市平込區高田馬場 振替口座東京二八六六番 手紙研究会

を陳述し省長より中央政府に申請して之が防止策を講せん事を要求したる(土庫)

